

## 長期宿泊体験活動検討委員会 第4回 議事要旨

○日 時：令和2年8月25日（火）午後3時～午後4時30分

○場 所：教育委員会室

○参加者：委員長、委員12名、事務局3名 計16名

### 1 開会

- ・資料の確認

### 2 教育委員会挨拶

- ・短い夏休みが終わり学校に元気な声に戻ってきた。第4回では、中学校セカンドスクールについて検討していく。プレセカンドスクール、小学校セカンドスクール、中学校セカンドスクールを体系化していくような案を考えていきたい。

### 3 議事

(委員長)

- ・中学校セカンドスクールにおいて必要とされる活動内容等についてみなさんと共有し、案を深めてまとめていきたい。
- ・今までの小学校セカンドスクールやプレセカンドスクールでの協議を基に、各委員より提出された活動内容案をまとめたものを見ながら、案を深められたらと思う。いきなりこの案を見ても、自分の案がどこに位置付けられているか分かりにくかったり、想定していたところと違う位置づけであったりしているところもあると思う。そこでまずは事務局より説明をしていただきたい。

(事務局) 説明

#### (1) 中学校セカンドスクールの活動内容まとめ

- ・事前にご提案いただいた活動内容案をまとめると、以下の3つの柱が見えてきた。
  - ①発達段階を踏まえた連携
  - ②発展的な体験活動
  - ③中学校独自の内容

(委員長)

- ・活動内容案のまとめ方について事務局より説明があったが、そのことについてご質問があればお聞かせいただきたい。
- ・一番上の発達段階を踏まえた連携というのは、小・中での連携というとらえ方でよいか。

(事務局)

- ・小・中の連携という意味。

(委員A)

- ・連携という言葉は少しニュアンスが違ってもいいかもしれないし、もう一度検討しなければいけない。小学校の経験を中学校に生かしていくということで、接続を意識すること、とも言える。

- ・小学校セカンドスクールでは、生活を共にする中で、よりよい人間関係が生まれる。中学校セカンドスクールはさらにステップアップして、グループ活動を多くすることで、他者と協働しながら課題解決に取り組むことになる。

(委員長)

- ・中学校のセカンドスクールは、小学校のセカンドスクールで人間関係を育む活動を体験してきた子どもたちが参加することになるので、中学校では小学校の内容よりさらに発展した内容を行って、発達段階を踏まえた連携をしていきたいという意見をいただいた。
- ・それでは、中学校のセカンドスクールの活動内容についてご提案やご意見を各委員よりお話しいただきたい。

(委員B)

- ・実施報告書から各中学校の行先と主な内容、課題についてまとめてみた。どの学校も自然体験活動を実施しているが、それをどう発展的な内容にしていくかということに課題を感じた。
- ・中学校独自の体験として、キャリア教育を見据えた職業体験をしたらどうか。
- ・前回の検討委員会で、雨の時のプログラムがあまり考えられていないという意見があった。小学校の場合は、雨の時はこうするというのが大体決まっていて、予約も事前にしてある。中学校はどうなのか詳しく分からなかったので、どうしているか教えていただきたい。
- ・現地の中学校との交流を進めるのはどうか。五中は、現地の中学校と交流をしていて、ポスターセッションなどを行っている。事前に現地について調べて行くと思うので、地域活性化をテーマにして、武蔵野市を例にとりながら紹介をするのもよいと思う。
- ・農家との交流では、農家としての仕事のお話をじっくり聞く機会を設けたらどうか。

(委員長)

- ・中学校セカンドスクールでの自然体験活動をいかに発展的な内容にするか。キャリア教育の視点から活動を考える、現地の中学校との交流、地域活性化のために武蔵野または現地についてのポスターセッションを行う、農家との交流についてご提案いただいた。
- ・小学校セカンドスクールでは、農家で農業体験や多様な年代との交流を中心としているが、中学校では職業としての農家について学ぶということもできる。

(委員C)

- ・自分が担任をしていた生徒や中学校の先生に話を聞いてみた。
- ・二中では5月にセカンドスクールを実施するということもあり、集団を固めるという部分でも役割を果たしている。
- ・生徒に聞いてみたところ、目新しさが無いという意見があった。一番印象に残ったことを聞くと、田植えだった。なぜかという、小学校のセカンドスクールではやらなかったから。目新しかったから印象に残ったのだろう。
- ・小学校よりも一歩進んだ内容という意味で、小学校で山に行ったなら中学校では海のある場所に行くとか、小学校とは違う体験のできる場所に行き、地域が抱える問題点を社会的問題や武蔵野市と結び付けて考え、解決する方法を探る活動を提案する。

(委員長)

- ・小学校の校長をやっていたときにつくづく感じていたが、中学校のことはほとんど知ら

ないというのが正直なところ。

- ・小、中のセカンド担当の先生からみると小学校と中学校では、それぞれの意図をもって実施していることになるが、活動内容によっては、子どもたちからすると小学校も中学校も同じことをやっていると感じている場合もある。
- ・中学校に通う生徒たちが、それぞれ小学校でどんな体験活動をしてきたのか把握して体験活動を考えていくというのは簡単なことではないと思うが、新たなセカンドスクールではそういったことをきちんと踏まえたうえで実施していく必要があるのではないか。

#### (委員D)

- ・令和元年度からの中学校セカンドスクールの場所替えにあたっては、校内でセカンドスクール検討委員会を設けて数年にわたり検討を行った。検討の結果群馬県みなかみ町に行くことになったが、その場所を選んだ理由のひとつとして、ユネスコエコパークに指定されているということもあった。武蔵野市に生きる私たちは地元のために何ができるのか、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見出す」学習の第一歩としてセカンドスクールを考えての選択である。
- ・今年、SDGs と関係した活動を考えていたところ、残念ながらセカンドスクール自体が中止となってしまった。
- ・生徒から小学校セカンドスクールの方が印象深いと聞いてショックだったが、幼少期の体験の方が強烈な気がする。ただ発達段階に即した学びがあるので、中学生には中学生なりの視点や学びがあると思う。小学校とのうまい接続の仕方、やることの分散をしてよい刺激を受けつつ、学習をどうしていくか。中学校ならではの視点・視野や先を見通して考える力を養っていきたい。

#### (委員長)

- ・SDGs やエコパークを活動内容と関連させた中学校ならではのテーマで考えていきたいというお話をいただいた。

#### (委員E)

- ・今年セカンドスクールがなくなってしまって中学生も行きたかったと言っていたが、たくさん中学校の先生の話聞いていく中で、果たしてこのままセカンドスクールという形でやっていくのがいいのかどうなのか考えなくてはいけないと思った。
- ・初任で第一中学校に勤務していた時は、入学して間もない4月終わりから5月初めにかけて、移動教室という形で志賀高原に行っていた。様々な小学校から集まっていたので、集団生活をしながら中学校生活の基盤づくりをしていた。もしセカンドスクールという形でなければ、入学して間もないころに中学校生活の基盤づくりや友達づくりの場としてやってもいいのではないか。
- ・セカンドスクールという形にこだわりはないが、1年生の宿泊行事は、中学校生活の過ごし方を考えたり、自分で健康管理を行うという意味で、とても大事。
- ・最近まで六中を含む中学校3校が安曇野市に行っていたが2校が白馬に移った。安曇野市以外の地域では旅行会社など現地機関の協力が大きく、様々な企画がやりやすいが、安曇野市はそういったものがなかった。第六中学校も移ることも考えたが、安曇野市は武蔵野市の友好都市であり、関係を絶えさせたくないという思いがあり、六中は安曇野市から移らずにさらにより体験ができるよう考えている。  
昨年セカンドスクールに行ったときに安曇野市役所に伺って、農政課と教育委員会に

協力をお願いした。今年から安曇野市の協力を得て農家泊を1泊から2泊に増やせることになった。今年にはコロナの影響でセカンドスクールが中止になると決まったが、11月に今後のセカンドスクールについて農家の方とZOOMで相談しようという話がある。

- ・中学校区の中で、小・中学校のセカンドスクールについて、話し合う機会があったらいいと思う。

(委員長)

- ・確か埼玉県のある中学校の1年生において、4月当初に宿泊体験教室を実施しているという話を聞いたことがある。年度当初に実施し、人間関係づくり、主体的な行動力、集団生活の基本等を学ぶ機会にしているとのこと。4月当初の実施なので、計画・準備に時間はかかるが、その後の中学校生活に意味があるといった話だった。
- ・小・中学校の連携ということで、小・中学校の先生が話し合い、中学校独自の発展した内容を考える機会を設けていきたい。セカンドスクールについて、具体的に小・中学校が事前に話し合う機会というのは現状あまりない。

(委員F)

- ・難しいことはよく分からないが、あったら良いプログラムを考えてみた。
  - ①プレ職業体験  
2年生で職業体験に行くので、東京での職業と現地での職業にどう違いがあるのか分かれば面白い。
  - ②オリパラ教育  
子どもたちが白馬でのオリンピックに関する学習がすごく楽しかったと言っていた。東京オリンピック後につながる学習があったら良いと思う。
  - ③民泊ならではの宿の方との交流  
雨のときは宿の掃除や厨房の手伝いなど、お父さんお母さんへの感謝の気持ちを表せるような体験があると、東京に帰ってきても感謝の気持ちを伝えられるようになるのではないかな。
  - ④ハイキング  
ハイキングはそれだけで自然にすごく触れる活動なので是非にと思う。通常のハイキング、また早朝ハイキングなども面白いと思う。
  - ⑤現地のすごいものについて勉強する  
子どもは黒部ダムに行ったが、黒部ダムについてもっと勉強したかったという声があったので、現地の特色についてもっと勉強したら良いと思う。また、帰ってきた後の学習につながるものがあると良いと思う。
  - ⑥災害時に活用できる術を学ぶ
- ・周りに聞いてみたところ、授業時数が足りないのであればセカンドスクールをなくすという意見もあったが、他はみんなセカンドスクールを続けてほしいという意見だった。

(委員長)

- ・各地で災害が起きていて他人事ではないので、キャンプなど屋外での活動を通して災害について学ぶことは良いかもしれない。
- ・武蔵野市の良いところは、予算は必要であるが、家庭の状況等により、自然の中での体験、様々な社会体験、各地への旅行等の機会が少ない子どももいる。こういった家庭も含めてすべての子どもたちが同じ年代で同じ自然体験ができる場所。それだけでも意味があると思う。将来にもつながると思う。

(委員G)

- ・子どもたちは、田植えや稲刈りは楽しかったと言っていた。ただそれ以上は何もなかった。何をしたのか、どうだったのか聞いたが、楽しかっただけで持って帰ってきたものが少なかったというのが、中学校セカンドスクールの率直な感想。
- ・民泊や農家泊というのは、良い意味で色々な刺激を受けたと感じる。
- ・年度当初に宿泊学習をして人間関係を形成するというのはすごく大事なことだと思う。ある大学の関係者から聞いた話では、4月5月に1年生を対象として合宿をしている。3泊4日で合宿をしているが、半数以上の学生が1日目で帰りたいたいと言う。なぜかという、家と勝手が違うから。家族や友達と行く旅行でも様々な体験ができるが、自分のものさしと違うところでの経験というのは、なかなかできない。セカンドスクールの民泊は、自分の家のルールが当たり前でないということを知る場として良い機会になっていると思う。
- ・セカンドスクールがそのまま続くのか分からないが、刺激を受けられるような宿泊行事はぜひ続けてほしい。

(委員長)

- ・以前、長期宿泊を経験した子どもたちの調査等で、人間関係・コミュニケーション、自主性・自立心などに効果が認められたという報告もあった。

(委員H)

- ・以前総合の学習的な時間ではなく教科でセカンドスクールの活動を取りたいという話があったので、具体的にやるとしたらどういったことができるか考えてみた。
- ・1年生で学ぶことと現地の産業を組み合わせ、学習しつつ体験できると良いのではないかと考えた。例えば1年生で浮力を学ぶが、浮力を現実で使うのは、船舶の設計と水難救助だと考えた。いかだ造りなどをして浮力について学びつつ、地域の産業についても学べると良いと思う。また、飯山でいうと仏壇産業というのがあって、木の切りだしから販売までの一連の流れを体験できる。第一次産業から第三次産業までが近所に固まっている場所というのはなかなかないのではないだろうか。

(委員長)

- ・小学校5年生では日本の農業や産業について学習をしているが、林業・製造・販売といった一連の流れをみるというのは、やはり中学校ならではだろう。そういった各産業等の一連の流れをみる場所かどうかも新たな視点として必要かもしれない。

(委員I)

- ・私たちの学校でも、先ほどお話のあった仏壇産業について、活動として取り入れるか検討しようとしていたところである。
- ・セカンドスクールが総合的な学習の時間として割り振られているからには、総合的な学習の時間としてのねらいを達成できるよう努力してきた。少しずつ改善はしてきているが、本質的に総合的な学習の時間かという堂々とは言えない。小学校に関しては、課題解決や探究というところに踏み込んだ活動ができているのではないかと思う。
- ・「中学校セカンドスクールの活動内容案まとめ」で、「他者とよりよい人間関係を築く場の設定」とあるが、セカンドスクールでの人間関係というのは生徒同士の人間関係が主になってくると思う。そうすると総合的な学習の時間で、中学校セカンドスクールの今

の形を維持するのは、無理ではないか。色々な小学校から集まってきた生徒が、中学校1年生で探究的な学習をしていくというのは難しいだろう。入学当初の時期に生徒も先生も人間関係を築く場として宿泊学習をするというのは意義があると感じた。それであれば、学校行事としてやればよいと思う。また、小学校についても、人間関係を築く場として、また自然体験の場としてセカンドスクールを行うのであれば、学校行事としてやるべきだと思う。総合的な学習の時間に当てはめて、育成を目指す資質・能力を考えるとというのは中学校については本当に厳しい。

(委員長)

- ・小学校と中学校について、セカンドスクールの体験活動やその取扱いについて、そのねらいや活動内容等の観点から吟味検討が必要であるといえるかもしれない。
- ・内容に応じた新たな提案をするのも良いかもしれない。

(委員J)

- ・セカンドスクールのねらいと武蔵野市民科のねらいをずっと見ていた。プレセカンドスクールは「自立」に力が注がれている。小学校セカンドスクールは「協働」、中学校は「社会参画」の要素が強いと感じている。SDGs や災害対策など、重点になるものがプレセカンドスクール・小学校セカンドスクール・中学校セカンドスクールでそれぞれあると考えやすいと思う。
- ・社会参画だと、現地に行ってから知ると内容が薄くなってしまうので、事前の調べ学習と事後学習が大切。そうすると、小学校セカンドスクールの6泊7日に匹敵するような手ごたえのある学びになるのではないかな。

(委員長)

- ・これまでセカンドスクールのねらいというのは、小学校セカンドスクール・中学校セカンドスクールで同じだったが、発達段階を踏まえてそれぞれにふさわしいねらいを設定すると良いのではないかな。

(副委員長)

- ・武蔵野市は家庭の経済状況に関わらず、すべての子どもたちにリアルな自然体験をさせたいという思いからセカンドスクールが始まった。長い年月を経て、セカンドスクールが総合的な学習の時間でとられるようになり、現在ではセカンドスクールというよりはファーストスクールになりつつあるのではないかな。
- ・どの学年で行っても、自然体験をすることで得るものというはあると思う。ただ、学校の教育課程の中で見ていくと、発展的な自然体験と言っても自然体験が発展的になるというのはいまいち想像がつかない。小学校で田植えをしたから中学校では稲刈りをするというのは発展したというのか。あえてやるのであれば、小学校では自分で田植えをしたお米を実際に食べて体験してもらい、中学校では農業という職業として学習するといった形で視点を変えて学習することはできると思う。
- ・小学校セカンドスクールでも家庭でも自然体験というのはできているから、中学校では学校で行くからこそできるような違った経験をさせるというのも一つの案だと思う。
- ・中学校セカンドスクールについて、学校行事なのか授業としてやるのかということから根本的に考え直してもいいのではないかな。

(委員長)

- ・これまでの各委員からの提案を聞いて、何かさらに付け足すことなどあればお話いただきたい。

(委員 I)

- ・先程の私の「中学校のセカンドスクールは学校行事でいいのではないか」という発言について。すべて学校行事なのかということではなくて、SDGs のような明確な目的があれば教科等の授業として扱ってもよいと思う。

(委員 A)

- ・以前はすべて総合的な学習の時間にするよう説明していたが、今は他の教科に位置付けることも可能としている。ただ慣習として、総合的な学習の時間を充てることが多いように思う。ファーストスクールの学習に合わせて、セカンドスクールでの活動がどのように位置づけられるのか考えていくことも大事だと思う。

(委員 E)

- ・武蔵野市の中学校が移動教室をしていた時代は、中学校 6 校が一緒に実地踏査に行っていた。そのため、教員同士の人間関係が築けることもあった。

(委員 D)

- ・総合的な学習の時間でのとり方は毎年苦慮しているところである。総合的な学習の時間は内容が盛りだくさんなので、若干時数を超える形でとっていて、厳しいものがある。
- ・新しい場所での活動を考えるのも、それまでと同等のものができるよう考えるのは大変。良い活動が見つかってでも金銭的な課題があると思われる。

(委員長) 説明

- (1) 他者とよりよく協働する実践的な活動（生活や人間関係をよりよく形成する場）の設定～長期宿泊体験活動における「主体的・対話で深い学び」の実現をめざして～
- ・これまでの宿泊日記の内容をさらに工夫し、ただやったことを書くのではなく、今日はこんなことをした。こんなことがうまくいかなかったから、明日はこうしよう。というような、自己の振り返りができるような日記を積み重ねていくと良いのではないか。

4 事務連絡

- ・日程調整
- ・次回について